

第2-3回N I E全国大会盛岡大会 概要

- 狙い／新聞を教育に役立てるN I E活動に取り組む全国の小中高の先生や新聞関係者らが、年に1回集まり情報を交換する。1996年に東京で第1回大会が開かれ、東日本大震災後、被災3県では初開催となる
- 日程／2018(平成30)年7月26日(木)、27日(金)
- 会場／盛岡地域交流センター「マリオス」(盛岡市盛岡駅西通2-9-1)
いわて県民情報交流センター「アイーナ」(盛岡市盛岡駅西通1-7-1)
大槌町立大槌学園(大槌町大槌15-71-9)
ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング(懇親会会場 盛岡市盛岡駅前北通2-27)
- 主催／日本新聞協会
- 共催／盛岡市教育委員会、大槌町教育委員会
- 後援／文部科学省、岩手県教育委員会、岩手県小学校長会、岩手県中学校長、岩手県高等学校長協会、岩手県私学協会、岩手県小学校教育研究会、岩手県中学校教育研究会、岩手県高等学校教育研究会、岩手県専修学校各種学校連合会、岩手大学、岩手県立大学、盛岡大学・盛岡短期大学部
- 主管／岩手県N I E協議会、岩手日報社
- 大会スローガン／新聞と歩む 復興、未来へ
- 内容／1日目(7月26日)…開会式、全体会(記念講演、パネルディスカッションなど)、懇親会

記念講演について

講師：齋藤 孝・明治大学教授

2日目(7月27日)…分科会(公開授業、実践発表、特別分科会)、閉会式

分科会について

▽公開授業 8校

小学校(3)＝盛岡市立本宮小学校、同市立松園小学校、岩手大学教育学部附属小学校

中学校(2)＝盛岡市立仙北中学校、岩手大学教育学部附属中学校

高校(3)＝岩手県立不来方高校、同県立盛岡商業高校、同県立沼宮内高校

▽実践発表 7校

小学校(1)＝岩泉町立岩泉小学校

中学校(1)＝一関市立磐井中学校

高校(2)＝岩手県立大槌高校、花巻東高校

小中高連携(2)＝岩手県立宮古水産高校(宮古市立藤原小学校、同市立河南中学校)、
岩手県立久慈東高校(久慈市立久慈小学校、同市立久慈中学校)

特別支援学校(1)＝岩手県立盛岡聴覚支援学校

▽特別分科会 2テーマ

公開授業＝大槌町立大槌学園現地授業

ミニシンポジウム「新学習指導要領とN I E(仮題)」

参加費(資料代)／教育関係者・一般 2,000円(懇親会参加希望者は別途5,000円)

新聞社・通信社・新聞販売関係者 15,000円(懇親会費含む)

※大槌学園公開授業に参加される方は旅費が別途必要になります。1日目の全体会終了後、盛岡市からバスで移動します。県外参加者優先となります

旅費／1泊2日(7月26～27日)12,000円(宿泊〈朝食付〉、1日目夕食、2日目昼・弁当含む)

2泊3日(7月26～28日)20,000円(同上。2日目の夕食は含みません)

申し込み／2018年5月中旬に詳しい大会プログラムをご案内し、受付を開始する予定です

復興教育と新聞 岩手から発信

第23回N I E全国大会盛岡大会実行委員会

事務局長 谷藤 典男

第23回N I E全国大会盛岡大会が7月26、27の両日、岩手県盛岡市を主会場に開催されます。東日本大震災後、被災3県で開かれるのは初めてのことです。

大会スローガンは「新聞と歩む 復興、未来へ」。震災当時から復興途中である現在まで、新聞と教育がどのような役割を果たしてきたのかを考え、未来に向けてN I Eの新たな可能性を探ります。

特別分科会の一つは、震災による被害が大きかった大槌町・大槌学園での公開授業です。参観を希望する方々には現地に出向き、被災地の子どもたちが学び、たくましく育つ姿をご覧になっていただきます。

大会は、岩手らしい多彩なN I E実践をご紹介しますまたとない機会となります。多くの皆さまに足を運んでいただきますよう心よりお願い申し上げます。

NIEいわて



第23回 N I E 全国大会盛岡大会実行委員会
(若手日報社読者センター内事務局)



復興教育と新聞発信

7月26、27日にN I E 全国大会盛岡大会

東日本大震災に被災した記事を使い、防災・被災の学術を進める盛岡市・本宮小の児童。

大会初日は盛岡市のマリオスホールで開行の幕を開き、高藤孝・明治大学教授による記念講演「復興教育と新聞」が、大実行委員長の基調講演「被災地、パナールディカシヨを創る」を皮切りに行われ、2日目の分科会は、アイーナを会場に公開授業校、実践発表校、分科会、特別分科会、総合的学習の時間など多彩な内容で盛り込まれ、N I E 実践発表の場となる。特別分科会として大槌学園 課程で計2年の授業公開の学びの場も設けられる。

【公開授業校(8校)】

- 1 本宮小(総合)
- 2 松園小(道徳)
- 3 若手大付属小(社会)
- 4 仙北中(国語)
- 5 若手大付属中(教科横断)
- 6 不來方高(国語)
- 7 盛岡商高(商業)
- 8 沼宮内高(総合)

【実践発表校(7校)】

- 9 若狭小(算数)
- 10 磐井中(社会)
- 11 大槌高(英語)
- 12 花巻東高(国語・総合)
- 13 宮古水産高
- 14 久慈東高
- 15 盛岡聴覚支援学校

【特別分科会】

- 16 大槌学園・公開授業(総合)
- 17 ミニシンポジウム 仮題 新学習指導要領とN I E ※教科書変更の可能性がります

【会場】 2018年7月26日(木)、27日(金)
盛岡市を主催会場に開かれる。被災3県での開催は初めて。「新七歩む復興、未来」をテーマに、全国各地のN I E 実践教師や新聞記者らと復興教育の取組みを発信する。

【主催】 2018年7月26日(木)、27日(金) 盛岡市を主催会場に開かれる。被災3県での開催は初めて。「新七歩む復興、未来」をテーマに、全国各地のN I E 実践教師や新聞記者らと復興教育の取組みを発信する。

【会場】 2018年7月26日(木)、27日(金) 盛岡市を主催会場に開かれる。被災3県での開催は初めて。「新七歩む復興、未来」をテーマに、全国各地のN I E 実践教師や新聞記者らと復興教育の取組みを発信する。



生きる力を育む



盛岡大会2日目の7月27日、東日本大震災の被災地・大槌町の「小中一貫教育校」大槌学園で特別分科会を開く。前期16年、後期7、9年課程の計2こまで授業を公開。学びを失った児童生徒は、仮設を離れ本校舎が完成し、新学習指導要領が実施されることを希望する。人材育成に力を注ぐ同町の学びを肌で感じてほしい。

被災地・大槌で2こま公開

大槌学園 行程

7月26日(木)
13:00 開会 ~ 16:30 全体会終了
16:40 盛岡発 → 19:00頃 釜石着(泊)

7月27日(金)
9:00 ~ 12:30 大槌学園で公開授業
① 1泊2日(帰りが早いパターン)
12:40 大槌発 → 15:00頃 花巻空港着 → 16:00頃 盛岡到着
② 1泊2日(帰りが遅いパターン)
12:40 大槌発 → 震災復興の現場視察 → 17:30頃 盛岡到着
③ 2泊3日
12:40 大槌発 → 復興スタジアム、復興現場の視察など → 夕方 釜石着(泊)
7月28日(土)
9:00 釜石発 → 11:30頃 盛岡到着
※盛岡-大槌・釜石間はバスで移動します。



東日本大震災で被害を受けた大槌町=2011年3月

お問い合わせ：若手日報社読者センター内 盛岡大会実行委員会事務局 ☎019・654・1208



記念講演
斎藤 孝氏
(明治大教授)

さいとう・たかし 東京大法学部卒。「声に出して読みたい日本語」がシリーズ260万部のベストセラーになり、日本語ブームをつくった。「新聞力」新しい学力」など著書多数。1960年、静岡県生まれ。

独自にシンボルマーク

盛岡大会実行委員会は、盛岡情報センターと連携して独自シンボルマークを作成した。最優秀に輝いたのは、浜田美奈さんの作品。『業』に活用し、大会発行の上に役立てていく遊びながら『業』をコンセプトにする。

大会プログラム(案)

- 1日目 7月26日(木) 全体会**
- ◆開会式 — マリオス大ホール
11:30~ 受付
13:00~13:15 開会式
あいさつ 日本新聞協会会長 岩手県教育長
歓迎の言葉 若手日報社代表取締役社長
 - ◆全体会 — マリオス大ホール
13:25~14:25 記念講演 高藤孝 明治大学教授
14:30~14:45 基調提案 盛岡大会実行委員長
14:45~15:00 休憩
15:00~16:30 パネルディスカッション
 - ◆懇親会 — ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング
17:30~
- 2日目 7月27日(金) 分科会・特別分科会**
- 8:00~ 開場
 - ◆公開授業 — アイーナ、大槌学園
9:00~10:30 1こま目
11:00~12:30 2こま目
9:00~10:30 大槌学園5、6年生(映像中継)
11:00~12:30 大槌学園7、8年生(映像中継)
 - ◆実践発表 — アイーナ
9:00~10:00 1こま目
11:00~12:00 2こま目
 - ◆閉会式 — マリオス大ホール
12:45~
 - ◆アドバイザー会議 — アイーナ
14:00~
- ※現時点でのプログラム案であり、変更があり得ますことをご了承ください。

社会の今見つめて

盛岡大会のプログラム(案)とシンボルマークを紹介します



2018 N I E 盛岡大会